国語科学習指導案

令和５年１１月２４日（金）１校時
第１学年　１組　１９名
（授業場所）１年生教室
指導者　教諭　中添　陽介

１　単元名「読みを深め合う」

２　本時の教材観および指導観

本時の教材は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）国語

> 国語第１学年２内容
> 知識及び技能　（２）
> 　イ　比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。
> 思考力、判断力、表現力等　C
> 　ウ　目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈すること。
> 　エ　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

を受けて設定したものである。本時は、生徒の多様な解釈や意見を生み出す場を通して「読みの交流」を行う。自分の考えを説明する中で、言葉豊かに表現する力を養うことをねらいとしている。生徒は、これまでにも詩や表現技法について学んできた。しかし、すべての表現技法について正確に理解している生徒は下表の通り少ない。このような現状から、表現技法についてその効果を学び直すとともに、詩の学習を設定することで、作者の強い思いが様々な表現技法にのせられていることを学び、視点を広げることができると考える。

○ 次の表現技法を理解しているか。

表現技法	比喩	倒置	反復	対句	体言止め
回答[%]	70.6	29.4	64.7	35.3	58.8

※R5　１１月９日(木)調査実施

３　授業構成の主な視点

> **【読解力の育成に関して】**
> **①　すべての子供にめあてを理解させ、授業のスタートラインをそろえる**
> **②　「まとめ」を自分のことば（文章）で表現させる**
> **③　「～だから…である」など、根拠を明確にして表現させる**
> **④　教師が意図した内容で生徒の話し合い活動が進む**
> **⑤　考えの共通点や相違点に着目しながら聞かせる**
> **【家庭学習とのつながりに関して】**
> **①　導入または「めあて」に家庭学習とのつながりを意識させる**
> **②　家庭学習への意欲が喚起されるような振り返り**

４　本時の授業

> **（１）指導計画　４　／　４　時間**
> **（２）指導のねらい**
> **表現の効果に着目し、技法を活用して新たな連をつくることができる。**

5　本時の展開

過程	活　動　内　容	授業の主な視点・手立て	
導入 (10)	○前時の振り返りと本時の説明。 ○ジャムボードにある宿題の内容を確認する。 ○めあてを設定する。	家① 読①	○新しく作る連のテーマを再確認させる。（ジャムボード）
	めあて：「　表現技法を使い、新しい連をつくる　」		
展開 (30)	1 班を作り、テーマを決定する。	読④	1 自分で決めたテーマに限らず、アイディアが広がりそうなものを探すよう促す。
	2 「それだけでいい」の第２連と第３連の間に入れる詩を作る。	読③	2 班で対話しながら、ノートに記入させる。
	話し合い活動：「どのような効果をねらい、どの表現技法を選択するかを考えながら新たな連をつくる」		
	3 詩の構成・表現技法・表現の効果を考え、推敲する。	読③	3 仕上げた連をカメラで撮影し、ジャムボードに貼り付けさせる。【評価１】 表現技法に付箋を貼らせる。
	4 グループごとに発表する。	読③⑤	4 表現技法のまとめプリントを参考にして、根拠（ねらった効果）を明確にしながら発表させる。内容で似ているところと違うところに気を付けて聴かせる。
	5 投票を行い結果を発表する。		5 根拠を明確にして、フォームに入力させる。【評価２】
	6 選ばれた班の詩を全員で読み、表現技法とその効果について振り返る。	読⑤	6 生徒の意見を紹介し、優れた表現技法に触れることで、詩に対しての新たな考えに気づかせる。
まとめ (10)	○ 自分の言葉でまとめる。	読②	○ ジャムボードに入力させる。
	まとめ：「表現技法を使い、その効果を考えながら新しい連をつくることができた。」		
	○ 学習のすすめをする。	家②	○ テーマと利用する表現技法を考える。
	学習のすすめ：「詩をつくるために、どのようなテーマで、どの表現技法を使うか」→自作の詩へのつながり		

6　評価

詩の表現の特徴や効果について、根拠を明確にしながら自分の考えを表現できる。【思考・判断・表現】

数学科学習指導案

令和５年１１月２４日（金）１校時
第２学年１組　　１３名
（授業場所）２年生教室
指導者　T１　教諭　増尾　薫人
　　T2　教諭　湯村　　舞

１　単元名「５章　三角形と四角形」

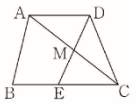
２　本時の教材観および指導観

本時の教材は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）数学

第２学年　２　内容　B　図形（2） ア（イ）　証明の必要性と意味及びその方法について理解すること。 イ（ア）　三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり，証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。 イ（イ）　三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。

を受けて設定したものである。三角形や四角形の性質を演繹的に確かめ、論理的に考察し表現する力を養うことをねらいとしている。

本学級の生徒は証明問題に粘り強く取り組む生徒が多く、根拠を明らかにしながら証明することを得意としている生徒が多いことが下記の結果からもわかる。

定期テスト 令和５年１１月７日(火)実施	右の図で、ＡＤ//ＢＣ、対角線ＡＣの中点をＭとしたとき、ＭＤ＝ＭＥであることを証明		平均得点率 79.1%

※参考：R5 県学力調査「図形」69.2%（県 51.7%）、「思考・判断・表現」59.6%（県 32.0%）

指導にあたっては、既習内容や性質を根拠として証明する力をさらに高めるために、発問を工夫したり、ICT を効果的に活用したりしながら、生徒とともに筋道を立てて問題を解決していく。また、協働的に問題解決をする場面を意図的に設定して、学び合いを通して推論の過程を簡潔・明瞭に表現する力を育んでいく。

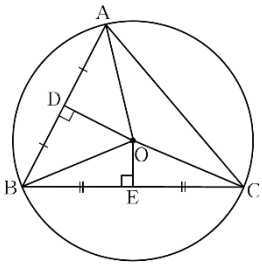
３　授業構成の主な視点

【読解力の育成に関して】
①　すべての子供にめあてを理解させ、授業のスタートラインをそろえる
②　「まとめ」を自分のことば（文章）で表現させる
③　「～だから…である」など、根拠を明確にして表現させる
④　教師が意図した内容で生徒の話し合い活動が進む
⑤　考えの共通点や相違点に着目しながら聞かせる
【家庭学習とのつながりに関して】
①　導入または「めあて」に家庭学習とのつながりを意識させる
②　家庭学習への意欲が喚起されるような振り返り

４　本時の授業

（１）指導計画　　９／２１　　時間
（２）指導のねらい
三角形（直角三角形）の合同条件を利用して，図形の性質を証明することができる。

5　本時の展開

過程	活　動　内　容	授業の主な視点・手立て	
導入 （５）	○家庭学習で復習してきた本時の学習に関わる作図について確認する。 ○問題の提示。「三角形に外接する円の作図の方法が、正しいことを証明してみよう」 ○めあてを設定する。	家 ① 読 ①	○三角形に外接する円の作図方法を再確認させる。（ジャムボードで垂直二等分線の性質を確認させる。） ○示すこと（結論）は何か、そのために必要な性質や根拠を生徒から引き出し、めあてを決定する。
	めあて：「三角形の合同証明をもとに、三角形に外接する円の性質を見いだすことができる。」		
展開 （３０）	1 OA＝OB を証明する。  2 OB＝OC →OA＝OB＝OC を証明する。 3 新たな問題を考え、証明する。	読 ③ 読 ③ 読 ④	1 全体への問いかけの中で証明の筋道を立てた後に個人で取り組ませる。（習熟度に応じてジャムボードのヒントを参考にする）【評価１】 2 全体への問いかけの中で証明の筋道を立てた後に個人で取り組ませる。（習熟度に応じてジャムボードのヒントを参考にする） 3 グループで新たな問題を考えて証明させる。早く終わったグループの考えを板書またはジャムボードで共有する。【評価２】
	話し合い活動：「①新たな問題について②結論は何か③どのように証明を進めるか④証明する」 （点 O から AC に垂線をひき、その交点を F とする。）←提示 このとき、直線 OF は線分 AC の垂直二等分線であることを証明。		
まとめ （１５）	○まとめを自分の言葉で書く。	読 ②	○まとめをいくつか紹介し、生徒に発表させる。（生徒のまとめを撮影したものをジャムボードで共有する）
	まとめ：「三角形の３つの辺の垂直二等分線は１点で交わること、またその点が三角形に外接する円の中心であることが三角形の合同証明をすることで理解できた。」		
	○学習のすすめをする。	家 ②	○次に学習したいことを生徒から引き出し、家庭学習につなげる。
	学習のすすめ：「四角形に外接・内接する円の性質は？」 →円周角の定理・高校数学へのつながり		

6　評価

図形の性質や関係を論理的に考察し、表現できる。【思考・判断・表現】

理科学習指導案

令和５年１１月２４日（金）１校時
第３学年　１・２組　２１名
（授業場所）３年生教室
指導者　教諭　浦本　陽華

１　単元名　「運動とエネルギー　第５章 エネルギー資源とその利用」

２　本時の教材観および指導観
本時の教材は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）理科

> 第１分野　２　内容
> （７）科学技術と人間
> イ　日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。

を受けて設定したものである。特に第４章と第５章は、様々なエネルギー資源の利用について、エネルギーの特性や変換方法と関連付けて理解させるとともに、エネルギーを有効、安全に利用することの重要性を認識させることをねらいとしている。生徒は、社会科や技術・家庭科技術分野で、発電方法について学習してきており、下表①の通り多くの生徒は知識がある。また、SDGｓについても、下表②の通り、地球環境保全活動や社会活動に関する項目を知っている生徒は半数を超えるが、７「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」の項目は比較的低い。日常生活を支えているエネルギーに関する問題を、自分事として捉えることはまだ十分ではない。エネルギー資源を利用する上での課題や有効利用について、生徒同士が意見を交流させることにより、持続可能な社会の担い手として、身近なエネルギー問題を多面的・多角的に捉え、表現することができると考える。

① 知っている発電方法をすべて答えなさい。

	水力発電	火力発電	原子力発電	太陽光発電	地熱発電	風力発電	ﾊﾞｲｵﾏｽ発電
回答〔%〕	89%	89%	89%	63%	47%	79%	21%

② SDGｓの 17 の目標のうち、知っているものをすべて答えなさい。

	地域環境保全活動に関するもの	社会活動に関するもの	経済活動に関するもの	パートナーシップ
回答〔%〕	55%	49%　※項目７は 32%	31%	42%

※R5　１１月７日(火)調査実施

３　授業構成の主な視点

【読解力の育成に関して】
①　すべての子供にめあてを理解させ、授業のスタートラインをそろえる
②　「まとめ」を自分のことば（文章）で表現させる
③　「～だから…である」など、根拠を明確にして表現させる
④　教師が意図した内容で生徒の話し合い活動が進む
⑤　考えの共通点や相違点に着目しながら聞かせる
【家庭学習とのつながりに関して】
①　導入または「めあて」に家庭学習とのつながりを意識させる
②　家庭学習への意欲が喚起されるような振り返り

４　本時の授業

（１）指導計画　　３１／３１　時間
（２）指導のねらい
エネルギー資源の有効利用に関する取組を多面的・多角的に捉え、持続可能な社会をつくる担い手としての意欲を高める。

5　本時の展開

過程	活　動　内　容	授業の主な視点・手立て	
導入 (5)	○スプレッドシートにある宿題の内容を確認する。	家 ①	○「エネルギーミックス」、「スマートコミュニティ」、「カーボンニュートラル」について調べたことから、社会の動向や状態を認識させる。
	めあて：「持続可能な社会を生きるための行動のあり方を考える」		
展開 (35)	1 調べてきたことを基にグループで要約する。	読 ①	1 個人で調べたことをグループで共有し、スプレッドシートに入力させる。内容が似ているところと違うところに気を付けて聴かせる。
	2 要約したことを基に班で共有し、話し合いテーマに対する意見をまとめる。	読 ③ ④ ⑤	2 各グループでの要約を根拠として、テーマに基づいた意見交換やまとめさせる。【評価１】 話し合いがスムーズに進んでいない場合は班に入り、視点に気づかせるような助言をする。
	話し合い活動：「『エネルギーミックス』『スマートコミュニティ』『カーボンニュートラル』は、SDGs の目標７の目標を実現させることにつながるということを、３つのターゲットとの関連に着目して説明する」		
	3 各班の意見を聞き、探究を振り返る。	読 ③ ⑤	3 各班の意見でよかった点をジャムボードに入力させる。【評価２】
まとめ (10)	○まとめを自分の言葉でかく。	読 ②	○数人に発表させ、全員にまとめを書かせる。（ワークシート）
	まとめ：「持続可能な社会を生きる私は、エネルギー問題を自分事として捉え、社会で行われている取組にも関心を持って、自分ができる行動をしていく」		
	○学習の振り返りをする。	家 ②	○ジャムボードに入力させる。授業の中にとどめないように促す。
	学習のすすめ：「普段のような授業の振り返りに加え、実際に自分が取り組んだことを入力する。」→実生活とのつながり		

6　評価

エネルギーの有効利用について、科学的根拠を基に自らの考えを表現できる。

【思考・判断・表現】

特別活動　計画案

令和５年１１月２４日(金)　２校時
全学年生徒　　５３名
（活動場所）体育館

１　活動名　　特別活動（生徒会活動）【２内容（１）の実践】

２　活動のねらい

○　連合生徒会で決めた家庭学習の目標や、宮中学校で行っている家庭学習に関する取組を検証する。
（① 家庭学習時間や質について　②メディアのルールについて）

○　家庭学習に関する取組を向上させるためのアイデアを出し合って、保護者や地域の方から意見やアドバイスをいただき、今後の活動につなげる。

３　これまでの活動の流れ

①　第１回（令和５年１０月２日(月)）

活動内容	形態	ICT 活用
○テーマ「家庭学習時間」 　連合生徒会で決めた「家庭学習は毎日最低１時間以上する」というルールについてのアンケートを事前に取り、その結果を基に班に分かれて協議した。	全体 班	Google フォーム Google ジャムボード

②　第２回（令和５年１０月３１日(火)）

活動内容	形態	ICT 活用
○テーマ「週課題のノートのまとめ方」 　週課題で提出しているノートのまとめ方（内容）について工夫ができているか等のアンケートを事前に取り、その結果をもとに班に分かれて協議した。	全体 班	Google ジャムボード

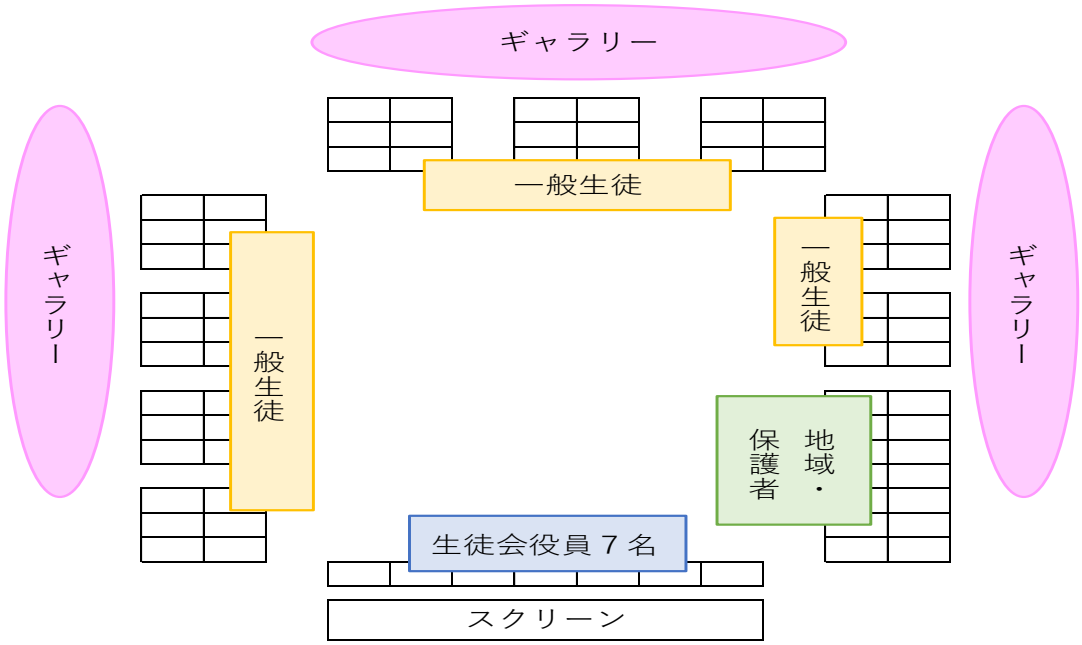
③　第３回（令和５年１１月２０日(月)）

活動内容	形態	ICT 活用
○テーマ「自主学習の内容」 　自主学習（宿題ではない学習）は普段どのくらい行っているか、どのようなことをしているかのアンケートを事前に取り、その結果をもとに班に分かれて協議した。	全体 班	Google フォーム Google ジャムボード

4　本時の流れ

	活　動	形態	ICT 活用
事前	取組に関する事前アンケートをとる。	個人	Google フォーム
導入 (5)	1　これまでの生徒会活動の取組について説明する。 2　本活動のめあてと流れを説明する。	全体	Google スライド
協議 (40)	3　これまでの集会で話し合ってきたことを確認する。 前回の集会で出た意見をまとめたものを発表する。 4　各班で協議する。 5　班の意見をみんなで共有し、生徒会役員のファシリテートにより班の意見を関係づけたり、統合したりするなどして内容を深める。	全体 班 全体	Google ジャムボード
	6　生徒アンケート（電子メディア）の結果を発表する。 7　各班で協議する。 8　班の意見を共有し、生徒会役員の質問により意見を深める。	全体 班 全体	Google フォーム Google ジャムボード
	9　保護者や地域の方から質問や意見、アドバイスをいただく。	全体	
まとめ (5)	10　生徒会長が会の総括をする。	全体	

5　会場配置図



子どもの学びの活性化プロジェクトに係る研究構想関連図（研究１年目）

資料１

佐世保市立宮中学校

子どもの学びの活性化

（１）家で勉強する習慣を
①家庭学習時間調査・分析
②週課題の取組　③Mノート

→ 学びの習慣化・下位生徒の底上げ

（２）朝食をしっかりとる習慣を
（３）適切な睡眠をとる習慣を
①生活アンケート調査・分析
②全国学力・学習状況調査結果の利用

↕ 家庭教育啓発活動

（４）電子機器の使用はルールを決めて
①アンケート調査・分析
②生徒会活動での取組

↓

学習環境の改善＜立て直し＞
〇課題取組状況　〇生活の様子
〇家庭学習の実態

- ①週課題の取組率 ②他の課題の状況
- ①家庭学習時間調査 ②学習内容の把握
- ①睡眠時間の状況 ②朝食摂取の状況

↓

【家庭教育啓発活動】
〇各種啓発文書（通信等）
〇メール、HPの利用
〇参観・懇談会・面談等の利用

授業改善メソッド

「めあて（１）学習規律の確立・徹底
①“宮中スタンダード”の作成
②学習形態の工夫　③朝学習
授業改善ポイント１

→ 学びに向かう力の育成

（２）「めあて」と「まとめ」のレベルアップ
①生徒と共有できるめあての設定
②生徒が自分で書くまとめ
授業改善ポイント２

→ 書く活動の充実

（３）学習の振り返り
①学習内容を文章表現する書く活動
②課題の出し方・内容の工夫

→ 家庭学習の充実

授業改善ポイント３

↓

授業展開の構築＜手直し＞
〇生徒の活動形態　〇発表
〇教師の説明・指示

- ①個人 ②ペア ③グループ・班
- ①自由発言 ②複数の挙手 ③意図を持った指名
- ①めあての提示 ②家庭学習につながる課題の工夫

読解力育成プラン

（１）各教科における読解力向上の手立て
①教科ごとの読解力の解釈
②教科ごとに実施する読解力向上の取組
授業改善ポイント４

↑

（２）リーディングスキルテストの活用
①本校生徒の読解の傾向の把握
②①を受けての各授業や活動への反映

指導と評価の一体化＜見直し＞
A知識・技能　B思考・判断・表現
C主体的に学習に取り組む態度

- ①ペーパーテストの工夫 ②文章による説明 ③観察・実験 ④式やグラフで表現
- ①論述やレポート作成 ②発表、話し合い ③作品制作や表現 ④ポートフォリオ
- ①生徒の発言・発表 ②ノートやレポートの記述 ③生徒による自己評価・相互評価 ④行動観察

授業改善ポイント５

家庭学習研究部

授業改善・基礎学習研究部

本校の研究構想関連図（研究２年目）

資料２

佐世保市立宮中学校

授業改善メソッド

【本校の実践事例（授業関連）】
1　学習規律の確立・徹底
　①“宮中スタンダード”（生徒版）の作成
　②“宮中スタンダード”（教師版）の作成
2　「めあて」と「まとめ」のレベルアップ
　①生徒と共有できるめあて
　②生徒が自分で書くまとめ
3　学習の振り返り
　①学習内容を文章表現する「書く活動」
　②課題の出し方、内容の工夫

研究授業の取組

【本校の実践事例（研究関連）】
1　全教員による研究授業実施
　①専用の指導案作成
　②３教科は「特定研究授業」
2　授業研究会の実施
　①焦点をしぼった議論
　②「家庭学習」と「授業改善」に大別した班別論議

学力向上の柱その１

授業改善

研究授業用指導案の作成・使用

子どもの学びの活性化

読解力育成プラン

【読解力向上を目指した本校の実践事例】
1　全教員による読解力についての共通理解
　①各教科における読解力について一覧表を作成
　②研究授業においての実施
2　各学力検査の分析（読解力を主眼において）
3　リーディングスキルテストの実施
　①結果分析
　②経年実施

【本校の実践事例（家庭学習関連）】
1　週課題への取組（生徒会活動）
　①課題のレベルを検討
　②生徒会による呼びかけ・集約および広報活動
2　家庭学習調査の実施・活用
　①量と質の双方の向上を目指す
　②生徒会活動とのタイアップ　学習部、生活環境部
3　家庭生活の見直し
　①お手伝い運動（生徒会）
　②生活メディアアンケート（生徒会）

学力向上のサブ的柱１

読解力の向上

家庭学習

学力向上の柱その2

ＩＣＴ機器の活用

学力向上のサブ的柱２

【読解力向上を目指した本校の実践事例】
1　全教員による校内研修体制の確立
2　全授業でのタブレット使用　3　全生徒毎日持ち帰り

各教科において読解力が求められる場面及びそれを活かす指導

資料３

読解力の定義（長崎県教育委員会）

各教科の枠を越えて、各教科等の土台となる能力
（１）文章を正確に早く理解できる。
（２）文章と図、表、グラフ等の関係を捉えたり、知識をもとに推論することができる。

国語科

〇辞書を正確に速くひける。
〇作文課題を正確に捉え、的確な文章作成ができる。

〇授業において、語彙の意味が分からないものがあれば、その場で辞書を引かせる。
〇課題に対し、100～200字程度の文章作成をさせ、発表させる。

社会科

〇図表、グラフの意味を正確に捉えることができる。
〇資料や史実を基に推測し、学習を深められる。

〇資料をより具体的に読み取ることで、根拠や理由を明らかにして推察したり、表現したりできるようにする。
〇社会的背景や実生活・実社会との関連性を意識できるような資料や教材を授業に取り入れる。
〇思考ツールを活用することで、社会的な事象を多角的・多面的に捉えさせるようにする。

数学科

〇数式の意味を正確に理解し応用できる。
〇表・グラフ・図を的確に読み取り、応用的に活用することができる。

〇式の表し方のきまりや計算法則を確実に理解させる。
〇問題解決の場面では、解決の見通しを持たせた上で、適切に数式を活用できるように指導する。
〇表・グラフ・図から読み取る問題に取り組む際に、条件を変えたときに成り立つ性質を見いだしたり、他に分かることに気づいたりできるような活動を促す。

理　科

〇数値のデータを表やグラフで表現し、根拠として活用できる。
〇実験・実習等の結果を基にして考察を書くことができる。

〇目的や仮説からどのような考察へと導くかを読み解いて、方法を立案し、実験する。
〇考察に活用できるように、工夫して結果を処理する。
〇実験結果を基に、根拠を明確にした考察を書く。

英語科

〇語彙や文法的表現を活用し、的確に作文することができる。
〇得た知識を積極的に活用し、会話表現ができる。

〇自分の考えや理由を相手に分かりやすく伝えるため、文法事項等を言語活動の 中で理解し定着させる。
〇即興のやり取りを意識的に取り入れ、既習表現に繰り返し 触れさせながら、英語を正しく話したり、書いたりする力を定着させる活動を積 み重ねる。

音楽科

〇歌詞のことばの意味を理解し想像できる。
〇音楽用語や記号などの知識を関連付け、深い学習活動ができる。

〇歌詞や記号の意味をしっかり理解させ、どのように表現したらよいか思いや意図を言葉で言い表したり書き表したりする活動を取り入れる。
〇イメージや感情を根拠を基に自分の言葉で表せるように促す。

美術科

〇感覚として感じたことを文章化・言語化できる。
〇美術理論を理解した上で技能につなげている。

〇感じたことを主語・述語、そう考えた根拠をはっきりさせながら言葉で表現する。
〇作品で表現する際に、学んだ理論とのつながりを明確にし言葉で説明する。

保健体育科

〇運動を安全に行う方法を実行している。
〇運動理論を理解した上で技能につなげている。

〇運動を安全に行うための方法や上達する方法を理解している。
〇グループ学習で、身につけた技能をゲームや記録会で生かせるよう、相手にわかるように伝える。

技術・家庭科

〇道具を安全に使うことができる。
〇理論面を理解し、技能面に活かす活動を実践している。

〇使用工具及び機器の正しい使用方法を伝えるとともに、誤りやすい事例も知らせる。
〇学習内容を、生活場面と重ねて考えることによって理解力を高める。

資料４－１

本校における課題と分析及び改善策（一部抜粋）

佐世保市立宮中学校

１　全国学力・学習状況調査（国・理）　令和４年度分

教科	問題番号	問題の概要 出題の趣旨	平均正答率 国 自校	改善のための具体策
国語	１三	スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。	51.8	弁論大会の準備・発表を通して、原稿の読み方を工夫したり、言葉を考えたりすることで、表現力を高める。
		自分の考えが分かりやすく伝わるよう、根拠を示しながら工夫して表現する。	36.4	
	３三	話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える。	62	ワークや心情理解の問題を解くことで、登場人物たちの行動や心情の変化を読み取る力を身に付ける。
		場面の展開や登場人物の心情の変化などについて，描写を基に捉える。	54.5	

教科	問題番号	問題の概要 出題の趣旨	平均正答率 国 自校	改善のための具体策
理科	４（２）	背椎動物には骨格のつくりに共通点があることから，カラスの関節Ａに対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する。	65.6	単元ごとにある「理科の見方」を示す。また、比較など「理科の考え方」を使う場面では、その視点を明示する。
		複数の背椎動物の外部形態の考察を行う場面において，あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し，共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる。	35.4	
	６（１）	玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し，その理由を選択する。	48	知識及び技能を習得させた後に、それらを活用する課題を設定し、共有する。
		玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで，岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。	27.3	
	８（１）	アリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に，課題に正対した考察を記述する。	55.2	考察につながるような結果を導くには、どのような実験方法で行わせたらよいかを考えさせる。
		アリの行列のつくり方を探究する場面において，視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し，課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる。	36.4	

本校における課題と分析及び改善策（一部抜粋）

佐世保市立宮中学校

2　全国学力・学習状況調査（数）　令和４年度分

教科	問題番号	問題の概要 出題の趣旨	平均正答率 国 自校	改善のための具体策
数学	4	変化の割合が２である一次関数の関係を表した表を選ぶ。	37.9	関数$y=ax^2$の単元の学習で、変化の割合について再確認し、１次関数のそれと比較する。
		一次関数の変化の割合の意味を理解している。	27.3	
	6（1）	同じ偶数の和である2n＋2n＝4nについて，n が9のときどのような計算を表しているかを書く。	73.8	各単元の学習や、受検前の様々な問題演習を通して、読み慣れていない問題文を根気強く読み、自分の考えを表現する場面を多く設定する。
		問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。	54.5	
	6（2）	差が４である２つの偶数の和が，４の倍数になることの説明を完成する。	48.7	３年の全単元終了後に、「式の計算の利用」の復習を行い、事柄の説明を繰り返し演習する。
		目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明することができる。	36.4	
	6（3）	ある偶数との和が４の倍数になる数について，予想した事柄を表現する。	37.6	授業の中で、予想し自分の考えをもつ場面をつくる。また、予想した事柄を自分の言葉で表現する。
		結論が成り立つための前提を考え，新たな事柄を見いだし，説明することができる。	18.2	
	7（2）	箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について，正しく述べたものを選ぶ。	44.1	図から読み取ったことをもとしながら、選択肢の文章を注意深く読み、選ぶ際には根拠をもって判断する。
		箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。	27.3	

資料４－２

本校における課題と分析及び改善策（一部抜粋）

佐世保市立宮中学校

３　長崎県学力調査（国）　　令和４年度分

教科	問題番号	設問の概要 出題の趣旨	平均正答率 県	平均正答率 自校	改善のための具体策
国語	１四（１）	同じ意味の言葉に言い換える。	82.2		ワークや問題で意味調べを行ったり、語句の問題で意味を選択したりして、語彙力を向上させる。
		文脈上の意味に注意し、別の適切な言葉に言い換える。	66.7		
	２二Ⅲ	漢字を読む。（留守）	91.3		教科書で習う漢字を中心に、練習・小テストを繰り返し行い、漢字を身に付ける。漢字検定を行い、漢字に対する興味関心を高める。
		文脈に即して漢字を正しく読む。	66.7		
	２五	内容を捉えて説明する。	48.8		ワークや内容理解・心情理解の力を養う問題を解くことで、回答の方法や内容把握の力を向上させる。
		描写に注意して読み、内容を捉える。	19		
	２七（１）	文章を読み、誰の心情が中心に描かれているか考える。	54.4		ワークや内容理解・心情理解の力を養う問題を解くことで、回答の方法や内容把握の力を向上させる。
		描写に注意して読み、内容を捉える。	38.1		
	３四	根拠を示して書く。	64.2		弁論作文、読書感想文、人権作文などを通して、伝えたい事柄と、根拠となる部分を明確にした作文を書くことで力を伸ばす。また、発問に対して、根拠を述べてから答える指導を行う。
		伝えたい事柄を踏まえて、適切な具体例を書き加える。	47.6		

本校における課題と分析及び改善策（一部抜粋）

佐世保市立宮中学校

４　長崎県学力調査（数・英）　　令和４年度分

教科	問題番号	設問の概要 出題の趣旨	平均正答率 県	平均正答率 自校	改善のための具体策
数学	２（２）	一元一次方程式の解き方の間違いを指摘する。	49.4		根拠を明確にしながら、数学の用語を使って他者に説明したり、考えを書かせる場面を、意図的に仕組む。
		一元一次方程式を解く方法を理解している。	57.1		
	８（２）	チラシの枚数とチラシの重さの関係を明らかにする。	67.2		用語・関係等の「定義」をはっきりさせる指導を行う。また、繰り返し問うことで理解を深める。
		問題解決に必要な事象における数量の間に成り立つ関係を明らかにすることができる。	71.4		

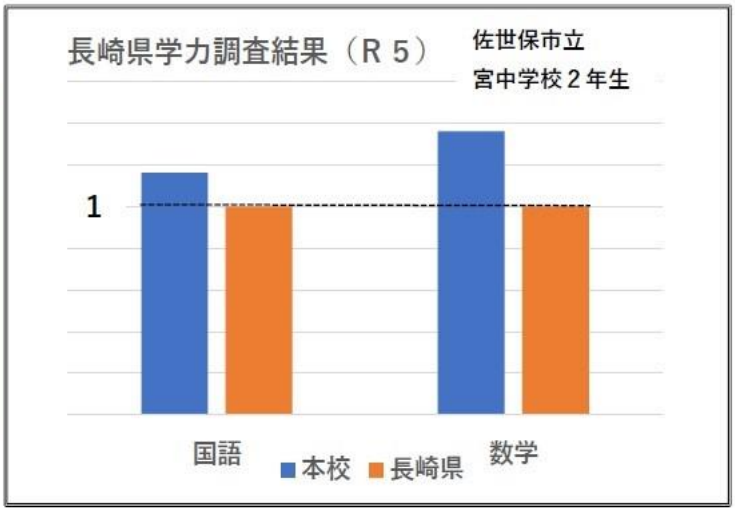
教科	問題番号	設問の概要 出題の趣旨	平均正答率 県	平均正答率 自校	改善のための具体策
英語	Ⅰ２３	親子の会話を聞き、質問に対する答えとしてタブレットがある部屋を表す絵を選択する。	68		話されること全体の大まかな内容を捉える力を身に付けるため、ALTの授業などで内容に一貫性のある英語を聞き取る練習をする。
		自然な口調で話される日常的な話題についての対話を聞き情報を正確に聞き取る。	45.5		
	Ⅱ４（２）	文脈から判断し、「どのように」という意味の疑問詞Howを選択する。	58		疑問詞の意味を正確に理解し、言語活動の中で何度も使用して慣れさせていく。
		単文レベルの英文の中で文脈的なつながりを理解し、正しい文法や適切な語彙を用いた表現を判断する。	36.4		
	Ⅱ７（２）	学校の校則の内容を読み取り適切なものを選択する。	24.9		意味のまとまり毎に英文を捉えさせながら、文章を最初から最後まで通して読む機会を設定する。
		まとまりのある英語の意見文を読んで、要点を理解する。	9.1		

資料５

各学力検査（各教科の数値）の結果と分析

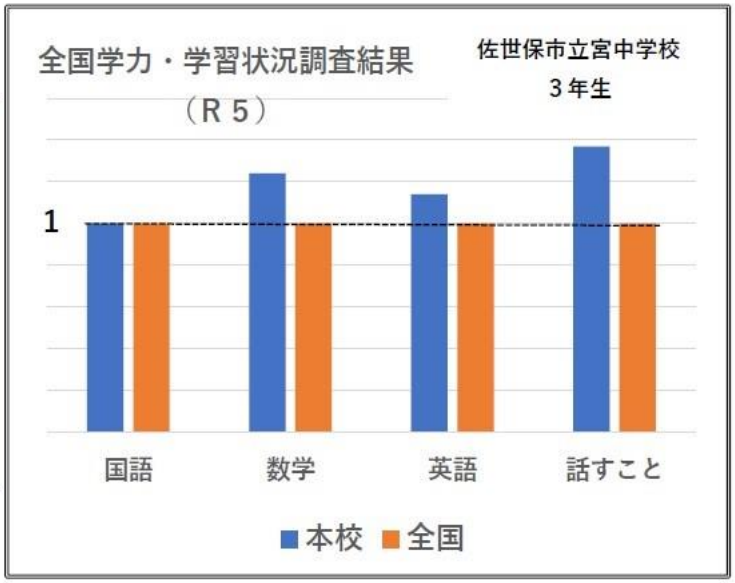
【長崎県学力調査結果】
長崎県全体平均を１としたときの比較グラフ

令和５年４月実施分
本校２年生
（１３名）



【全国学力・学習状況調査結果】
全国平均を１としたときの比較グラフ

令和５年４月実施分
本校３年生
（２１名）



【結果の分析】
○現３年生は言語系統の学習内容が苦手（１年生時の市学力、２年時の県学力も低め）であったが今回の全学で伸びがみられた。
⇒家庭学習の量および質の向上の効果と考えたい。
⇒言語活動（話す、書く活動）にこだわりを持った授業を展開できたため。
○現２年生は入学時の学力（１年時の市学力はそれほど高位ではない）はまだ不足な面が多くみられたが、数学科で結果を出せるようになってきた。
⇒「めあて」「まとめ」「振り返り」といった授業改善のポイントをしっかりと意識し、研究授業および授業研究を重ねながら授業のレベルをアップを図ることができたため。
○英語科において点数的なものおよび「話すこと」での結果が得られた。
⇒通常の授業において常に「会話」を意識し、ＡＬＴの活用方法の工夫、英語検定への積極的な参加呼びかけ等の取組が効果を上げた。

資料６

家庭学習時間調査からみる結果と分析

令和４年度第３回調査（１月実施）　　佐世保市立宮中学校

【課題学習に対する取組（令和５年１月）】

時間／実施回	平日学習（課題）第３回（1月）　単位%(人数)	時間／実施回	休日学習（課題）第３回（1月）　単位%(人数)
0～1	51.1(23)	0～1	37.8(17)
1～2	35.6(16)	1～2	42.2(19)
2～3	13.3(6)	2～3	15.6(7)
3以上	0(0)	3以上	4.4(2)

【自主学習に対する取組（令和５年１月）】

時間／実施回	平日学習（自主）第３回（1月）　単位%(人数)	時間／実施回	休日学習（自主）第３回（1月）　単位%(人数)
0～1	68.9(31)	0～1	53.3(24)
1～2	24.4(11)	1～2	20.0(9)
2～3	2.2(1)	2～3	22.2(10)
3以上	4.4(2)	3以上	4.4(2)

【家庭学習量に関する総括】

〇第３回の調査結果　対象：全校生徒　４５名

家庭学習時間（平日１日平均）２．０２時間（課題：１．１２　自主：０．９０）

（休日１日平均）２．５３時間（課題：１，３１　自主：１．２２）

総平均学習時間（１日）　２．１７時間　　※学習塾との学習時間を含む

【成果と今後の取組について】

（成果）（１）家庭学習時間は平日、休日共に伸びが見られる。

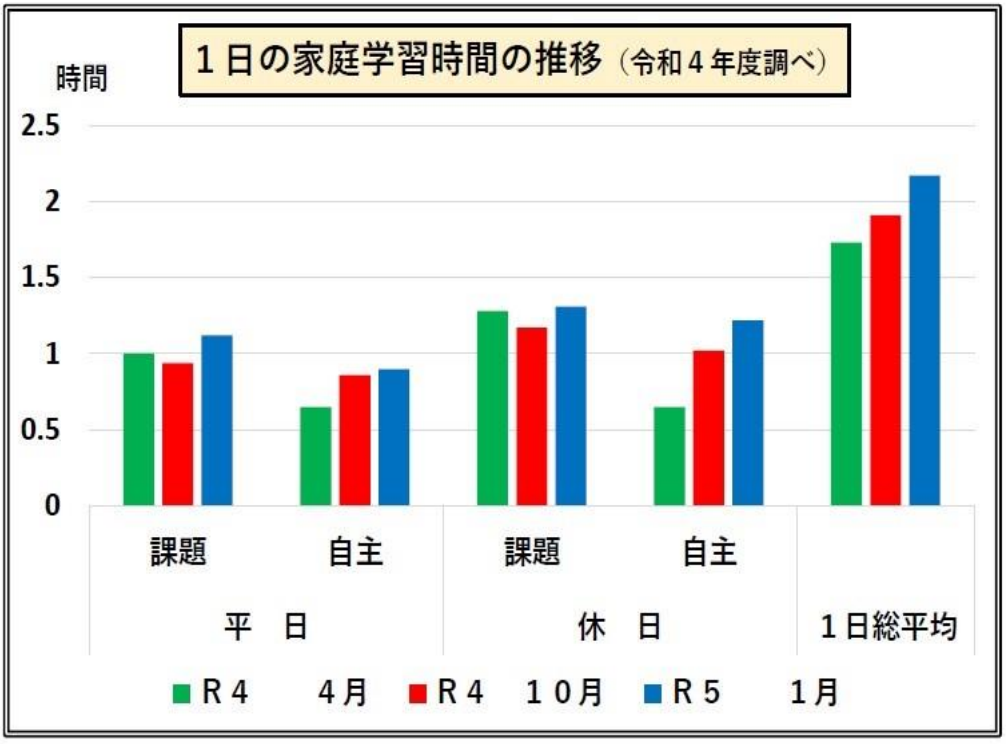
（２）自主学習においても伸びが見られる。

（取組）（１）授業改善を更に前へと進める。

（２）各教科において引き続き課題の工夫を行う（家庭学習につながる課題の提示）。

（３）生徒会活動の活性化を継続し、あわせて保護者等への啓発を行う。

家庭学習時間の推移と結果からの考察



【結果からの考察】

1　「課題学習の時間は４月が多いが学習時間自体は１０月・１月の方が多い」

⇒（１）新学期早々ということで、課題に関して取組への緊張感がある。

（２）４月は行事の多さに加えて、部活動の時間も長く、家庭学習の時間の確保が難しい。

（３）１０月、１月は部活動の時間が短く、帰宅時間が早くなることから家庭学習の時間が確保しやすい。

2　「少しずつではあるが、自主学習の時間が伸びている」

⇒（１）授業改善の効果により、「自主的な課題への取組」が増えている。

（２）ｅメディアの学習利用が増えている。

3　「自主学習の時間の増加を“質の向上”と捉えたい」

⇒（１）自ら学習する時間の増加は学びに向かう姿の象徴であり、そこで学び得るのものは質が高いといえるのではないか。

（２）質の高い学びが各種学力検査の結果となって表れている。

研究関連の進捗状況（研究１年目終了時）

佐世保市立宮中学校

１　「子どもの学びの活性化」を通して

現在研究推進中もしくは計画中の内容			今後研究推進を図る内容		
（１）	家庭学習の習慣化 （主に「家庭学習研究部」で実施）	①家庭学習時間や内容等を調査 ・１回目の現在分析中　近日中２回目実施の予定	（１）	家庭学習の習慣化 （主に「家庭学習研究部」で実施）	①各授業の学習の振り返りから課題に取り組む意欲を高める取組 （課題の出し方、内容の工夫等）
		②週課題の取組 ・各教科による輪番の課題提示 ・生徒会活動とのタイアップによるコンテストあり ・学習の習慣化を目指す			
		③Mノートの記入 ・学習計画の記入（日々の課題やテスト前計画等）に利用	（２） （３）	生活習慣の見直し （主に「家庭学習研究部で実施）	②全国学力学習状況調査の分析とその後の取組 ・主に質問紙調査（生徒個人の分析も含む）
（２） （３）	生活習慣の見直し （「家庭学習研究部」および生徒指導部）	④各種アンケート調査（睡眠時間・朝食摂取等） ・生活アンケート等の利用	（４）	家庭への啓発活動 （主に生徒会で実施）	③家庭への啓発活動 ・メディアに関する調査・対策 （生徒会活動とのタイアップ）

２　「授業改善メソッド」を通して

現在研究推進中もしくは計画中の内容			今後研究推進を図る内容		
（１）	学習規律の確立・徹底 （主に「授業改善・基礎学習研究部」で実施）	①「宮中スタンダード」の作成 ・数年前作成されたようだが、一新する。	（１）	学習規律の確立・徹底 （主に「授業改善・基礎学習研究部」で実施）	①学習形態の工夫 ・個人、ペア、集団などのそれぞれの学習形態に意味を持たせる。 ・教師の説明や指示の見直し ・挙手のさせ方の工夫
		②朝学習の取組 ・eライブラリ等の学習 ・学習材の選択機会を与える			
		③学習形態の工夫 ・新しい指導案形式の作成	（２）	「めあて」と「まとめ」のレベルアップ （主に「授業改善・基礎学習研究部」で実施）	②生徒と共有できる「めあて」 生徒が自分で書く「まとめ」
（２） （３）	生活習慣の見直し （「家庭学習研究部」および生徒指導部）	④各種アンケート調査（睡眠時間・朝食摂取等） ・生活アンケート等の利用	（３）	学習の振り返り （「家庭学習研究部」および「授業改善・基礎学習研究部」で実施）	③学習内容を文章表現する書く活動 ・授業の中に必ず位置づけ

３　「読解力育成プラン」を通して

現在研究推進中もしくは計画中の内容			今後研究推進を図る内容		
（１）	各教科における読解力向上の手立て （主に各教科による取組）	①各教科ごとの読解力の解釈 ・全教科における一覧表の作成	（２）	リーディングスキルテストの実施	①本校生徒の読解の傾向の把握
		②各教科ごとに実施する読解力向上の取組 ・各研究授業（７月より全教科実施） ・授業研究会の実施			②①を受けて教師の授業改善に活かす。

委託研究に関する全体構想図（時系列　研究２年目）

佐世保市立宮中学校

資料８

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
発展期Ⅱ～更なるレベルアップを目指そう					成熟期～教師と生徒、共に学び高みを目指そう				完成期～新たな自分の発見へ		

県および市の指導・報告等

- ５／１２　学びの応援会議（第１回）
- ７／１８　中間報告（２回目）
- ９／１２　学びの応援会議（第２回）
- ９／２５　中間指導（３回目）
- １１／２４　研究本発表
- ２／９　学びの応援会議（第３回）

年間を通し、共通のテーマで討論をする

ポイントを絞った共通形式の指導案にて実施

【研究授業　授業研究会（校内研修）】
〇全職員による研究授業の実施
〇職員全員による研究授業・授業反省会を包含した授業研究会
〇授業改善３つのポイントにて共通なテーマを設定し、研究協議を行う。

①「めあて」と「まとめ」のレベルアップ
②振り返りの時間の設定
③読解力向上の手立ての実施
今年度は上記の３点に絞り込み！

学び合いおよび書く力の強化

【各教科における取組（日々の授業による実践）】
〇読解力の向上
①教科による読解力の育成
〇毎時の授業における「めあて」「まとめ」の工夫
①授業での提示の仕方

各教科による読解力の解釈に従った授業改善を実施

【各教科における取組（日々の授業による実践）】
〇毎時の授業における「めあて」「まとめ」の工夫
②生徒による自主的な取組
〇読解力の向上
②向上への具体的な実践
〇指導と評価の一体化
①ペーパーテストの工夫
②自己評価・相互評価

（民間の）統一テストの導入

【各教科における取組】
〇振り返りを意識した授業改善
①家庭学習とのつながりを意識
〇授業展開の構築
（手直し・教師の振り返り）
①発問の仕方の工夫
②ペアやグループ学習での深い学び

【校内研修および各研究部による研究活動】

授業改善・基礎学習研究部
①「めあて」「まとめ」の定着
②各種テストの分析

家庭学習研究部
①週課題　②Mノートの改善
③各種調査の実施

授業改善・基礎学習研究部
①「めあて」「まとめ」のレベルアップ　②各種テスト・調査結果の活用
③宮中スタンダード（教師・生徒）の活用

家庭学習研究部
①各種調査の実施・分析
②学習の振り返り活動の研究

家庭学習時間調査4
・状況の把握
・結果の分析

全国学力・学習状況調査
・生徒質問紙データ分析、活用

リーディングスキルテスト
・読解力についての分析（生徒・職員）

家庭学習時間調査5
・メディア調査とのタイアップ

家庭学習時間調査6
・年間結果の集約
・次年度具体策の検討

生徒の自主的活動を取り入れた学校行事および生徒会活動等

生徒総会

野外宿泊活動
修学旅行 長崎自主研修

自主的活動を必ず取り入れたい

メディア調査

平和集会

体育大会

合唱等文化活動

職場体験活動

福祉体験活動

生徒会役員任命式・引継式

メディア調査

生徒が自ら考え、企画し、実行することにこだわる取組

長崎県「学びの活性化」プロジェクト ～すべての子供の可能性をひらく「学びに向かう力」の育成～

資料９

「学びの習慣化メソッド」骨子（宮中版）

「読解力を高め、主体的に学び合う生徒の育成」を研究主題に掲げ、本校教育活動の全ベクトルを学びの習慣化および活性化に向け、生徒の『学びに向かう力』に全職員で取り組んでいます。

授業改善からのアプローチ

生徒が主体的に学ぶ授業づくりの研究

○「長崎県授業改善メソッド」を活用した授業改善
　・読解力の育成　・ICTの活用
○積極的な研究授業の実施と工夫した授業研究会
　・全教員による研究授業の実施
　・特定研究授業の実施
　・テーマを的確に絞った研究会の実施
　・2つの研究部の効果的活動

授業改善への実際の取組

○「学習スタンダード」の作成
○5つの改善ポイントの徹底
　①めあて・まとめ ②振り返りの時間 ③スタンダードの実行
　④読解力向上の手立て ⑤評価（発表・発問の工夫）
○学力検査問題の分析と活用
○リーディングスキルテストの実施とその活用
○タブレットの活用（教師・生徒）

【全取組はここから発出】
○読解力の向上の手立て
○研究会用指導案形式の作成
○ICTの効果的活用
○家庭学習へのつながり　等

授業（教師）

学びの習慣化

家庭学習　　**その他の活動**

活動を連携させ、家庭や地域への啓発につなげる

家庭学習支援からのアプローチ

家庭学習への支援と指導

○Mノートの利用法の見直し
　・不要な部分のカット　・家庭学習計画の支援と指導
○タブレットの毎日の持ち帰り
　・学校からの課題提示　・AIドリルへの取組
○授業課題の改善
　・長期休業中の課題の在り方　・課題の出し方など

家庭学習への支援と指導

【本校生徒の家庭学習時間の目標】（休日は学習塾の時間を除く）
　平日１日平均 2時間　　休日１日平均 3時間

行事・生徒会活動からのアプローチ

各種行事での支援と指導

○各行事における生徒の自主的活動の挿入
　（実践例）生徒総会の自主的運営　体育大会での創作活動等
　　音楽会での合唱活動
○各行事における振り返り活動（教師・生徒）
　（実践例）総合的な学習の時間による取組での生徒の振り返り
　　活動（作品創作）

各種行事での支援と指導

○生徒会活動とのタイアップによる活動
　（実践例）週課題（学習委員会）お手伝い運動（生活委員会）
　メディアアンケート（保体委員会）学習量調査（学習委員会）等